

可決！議員定数2減！

[令和4年第4回定例会] 4億3344万円追加 総額137億8254万円

【令和4年第4回定例会】

令和4年12月一般会計補正予算など24議案（予算4、条例8、その他12）と、議員定数を現行の14から12に削減する条例改正案など議員発議3件を上程した。

主な補正予算は、ふるさと納税返礼品の事業費1億8180万円、村在住の外国人と連携した震災遺構パンフレット作成や食文化交流イベントなどの多文化共生事業費200万円。一般質問には2名の議員が登壇した。

発議第6号 南阿蘇村議会議員の定数を定める条例の一部を改正する条例について

原案可決

議員定数は、昨年の議員改選前から議会改革の一つとして検討を進めてきた。

合併時は、本村人口が1万2,395人に対し、本年10月末現在では約1万159人となった。

熊本地震における膨大な財政支出により、厳しい村政運営が予想される状況であり、議員定数の削減はやむを得ない状況である。

よって、**議員定数14名から2名減の12名へ改正条例を提案するもので、次回一般選挙から適用**する。

発議第7号 南阿蘇村議会委員会条例の一部を改正する条例について

原案可決

委員会の見直しは、昨年からの議会改革の一つとして検討を行い、委員会の定数は一人でも多くすることで、審議の活性化が図れるとして再編を進めてきた。

結果、三つの常任委員会を二つの常任委員会とし、委員定数は各6人とする。この改正条例は令和5年の第1回定例会から適用するものであり、次回の一般選挙までは両委員会とも7人にて運営する。



賛成討論 河内克也議員

社会状況、財政状況を勘案し最適な選択肢を示すという民意の統合も村議会に課せられた重要な権限であり責務と言える。定数削減は自分自身も悩んだ。厳しい財政状況の中、議員、議会自ら身を切り改革をしていく姿勢を示すこと、それこそが村民の皆様から信頼に応えられるものであると考え、村議会は今変わらなければならないと思い、重い決断をした。条例改正案に賛成する。（関連記事P11）

【第4回議会臨時会 11月11日】

議案	審議内容	審査結果
承認第8号	専決処分事項の承認を求めることについて（損害賠償の額を定め和解）	原案可決
議案第76号	令和4年度南阿蘇村一般会計補正予算（第5号）の議決について	原案可決
議案第77号	令和4年度南阿蘇村簡易水道特別会計補正予算（第2号）の議決について	原案可決
議案第78号	令和4年度南阿蘇村上水道事業会計補正予算（第2号）の議決について	原案可決

可決！ 議長に議員辞職勧告

議会提出追加議案 発議第8号 桐原純男議員に対する議員辞職勧告決議について

原案可決

提出者 笠野 眞喜

賛成者 橋本 功 山室 昭憲 後藤 征昭 今村 竜喜 今村 輝宏 河内 克也
岡 智則 辰巳 和美

令和4年11月16日から11月19日までの南阿蘇村議員全員視察研修中、11月17日の昼食時に桐原純男議員は缶ビール350mlを店内に持込み他2名の議員にも注ぎ、研修中にもかかわらず飲酒をした。このような行為は、議員としての倫理感に欠けるとともに南阿蘇村議会の信用失墜に当たり、断じて許せるものではない。議会及び村を混乱させ多方面に悪影響を及ぼすような状況をつくっている。

桐原純男議員は議会を代表する議長でありながら、議員としての自覚と資質に著しく欠け当議会の信用を大きく失墜させた。研修中に飲酒の件に対し注意されたにもかかわらず、猛省することも無く未だ言い訳を連ねている。今後もこのような事が繰り返される可能性が非常に高く、これ以上看過することは出来ない。よって速やかに議員を辞職するよう勧告する。

質疑 丸野健一郎議員

私は、当事者の一人として、研修中の軽率な行動に対し反省をしている。しかし議長は、前日購入したビールを半日ほどバッグに入れたまま視察しており、邪魔くさいと思ったと思う。昼食時にビールを飲むというより、ビールの処分を手伝ってほしいかとの思いだったと思う。もちろん、研修中の飲酒ということで軽率だったと反省している。私も止めれば一番良かったと思っている。他の議員の皆さん、また事務局、大変嫌な思いをされました。村民の皆さんにも心から謝罪したい。

反対討論 坂田正也議員

議長が手持ちのポシェットから、前夜の部屋飲みで余った缶ビールを取り出され、近くに座っていた2人に「ぬるかばってん飲んでくれんかな」「飛行機に乗る前に無くしておいた方がいい」と言われ、私は、後に一ヶ所を見学することは知っていて、見学するだけなのでコップ半分くらいならいいだろうと思い、飲んだ。今になって思えば、軽率な行動だったと深く反省している。3名とも深く反省しているのは当然のことだが、議長は翌朝のバスの中、最終の挨拶でも謝罪している。今回の行動だけで辞職を求めるのは重すぎると考え、反対討論とする。

賛成討論 辰巳和美議員

当日、午後から悲惨な沖縄戦の戦場となった海軍司令部壕と資料館研修前の出来事である。村民への背信行為であり、戦争で犠牲になられた御霊に対し申し開きが出来ない。議会の代表者として研修時には主宰者として重い責任がある。村議会の品位と名誉を損なう行為により、村民の議会に対する信頼を著しく損なったことに対する責任は非常に重いものと考え、謝罪だけでは終わらない問題だと考えており、議員辞職あるいは、議長を辞職し責任をとるべきと考え、賛成討論とする。

賛成討論 今村輝宏議員

旅行会社の添乗員も同行され、初日から最後の日まで再三にわたって「昼食時のアルコールはありませんよ」と注意があったにもかかわらず、2日目の昼に議長他2名が飲酒との事。缶ビールを飲む必要はなく、反対理由は通じないものと思っている。一緒に飲まれた2名の議員も猛省して頂き、桐原議長は議会を監督する立場であり議員辞職勧告を重く、重く受け止めて、速やかに対処して頂くことを願い賛成討論とする。

合同 常任委員会

定例会4日目（12月8日）総務、文教厚生、経済建設の合同常任委員会を開催。第4回定例会に上程された議案について執行部に詳細な説明を求めた。

令和4年一般会計補正予算

土地購入費とは

〈笠野委員〉

瑠璃温泉の土地購入費の詳細の説明を。

〈産業観光課長〉

今後プロポーザル公募を予定する瑠璃温泉の一部が借地契約となっており、そこに温泉施設の浄化槽が埋設してある。そのため、温泉施設に必要な土地を購入するための費用である。

ふるさと納税寄付金返礼品等の支出とは

〈今村輝宏委員〉

ふるさと納税の現状及び年度末に想定される納税額、また返礼品の上位産品、企業版ふるさと納税の納税額の詳細を。

〈政策企画課長〉

現在の寄付金が、12月現在で約4億6000万円で前年比1.8倍。年度末の大体予想として、約7億円を予想している。返礼品は、三つの米をセットにしたものが一番上位で、二番目があか牛の肉で、三番目が馬刺しである。企業版ふるさと納税は、今年度は、6社で約1000万円の寄付を頂いている。



第1位 米類



第2位 馬刺し



第3位 あか牛など

マイナンバーカードの現状は

〈河内委員〉

取得率及び申請率のアップ策として、担当課が集会所及び公民館を訪問しており、多くの村民が申請をされていた。効果があったと思うが、現状の申請率は。

〈住民福祉課長〉

11月30日現在で、マイナンバーカード交付申請率は、45%である。10月24日から11月28日まで公民館等で出張交付申請を行い、1,116人の新規受付があった。12月11日と12月17日に休日交付申請も実施する。



本村：令和5年1月1日現在 申請率76.1% 交付率57.1%

その他

〈橋本委員〉

水田活用で5年水張りをしない場合、直接交付金は対象外となっている。交付金がゼロになると農家は大変厳しい状況になる。村として農家の支援はできないか。

〈農政課長〉

5年間水張りがないところは、畑作に転換する補助など新たな対策を協議されている。現状は、まだ何も示されていない。今後の施策は検討していく。

〈笠野委員〉

そばの補填をしないと農政課長が言われたが、請願書の議決はしている。何でしないかの説明を耕作者にどういう形とするのか。

〈農政課長〉

来年度に、そば補助金の生産者説明会を計画している。今回予算は計上していない。ほかの作物に関しても価格は下がっており、生産の価格補填をするのは、財政的にも大変厳しいということで理解頂きたい。

〈笠野委員〉

日本財団によるB&G防災拠点事業で機材関係が納入される予定であるが、今の状況は。

〈教育委員会局長〉

B&G防災拠点事業で、重機の機材の搬入のほかにソフト事業を3年間することが必須になっている。技術のスキルアップ研修も兼ね、継続的に実施する必要がある。そのため、グラウンド等が隣接して、実技講習また操作訓練等が安易にしやすい場所として再検討を行い、旧白水庁舎東側駐車場の車庫を重機等の保管場所、旧白水小学校の校舎を座学等に敷地内を実技の講習で使用する計画で進めている。

〈辰巳委員〉

保育所で送迎バスによる置き去り等が問題になっているが、本村での対策は。

〈保育所長〉

3保育園と子育て支援課で協議を行い、バス運行規程を10月3日に施行している。内容は、利用園児の申し込み、利用許可をとり、バス利用者の名簿作成を行い、乗降終了の際に保育士と運転手が毎日チェックを実施している。また、車内の清掃・消毒を行いながら忘れ物がないかなど二重のチェックも実施している。



〈辰巳委員〉

前回の臨時議会で住民福祉課長から5万円給付の説明を受けた。その後、高森町で住民一人一人に5万円の給付が実施されている。住民よりどうしてそんなに差があるのかの質問に対する説明を。

〈村 長〉

高森町は、全町民に5万円、事業者に10万円ということであるが、高森町のやり方でされており、高森町に聞いて頂きたい。南阿蘇村は、村のやりかたがあるので、質問には答えられない。

〈辰巳委員〉

そばの請願は、議会で賛成多数で可決している。そば生産者を皮切りに、他の農作物等にも支援がいくように検討して頂きたい。

〈村 長〉

そばに特化して価格補填をするわけにはいかない。これから販売の方で、農家の手取り価格が変わらないように販売努力をしていく。

〈後藤委員〉

人事補填の件で、農政課職員の不慮の事故の際に仕事量がたくさんある中、人事を機敏に対応出来なかったのか。

〈村 長〉

どうするかと協議はしたが、すぐに異動することは課の状況もあるので出来なかった。

〈後藤委員〉

土地改良区に役場職員を派遣してあるが、本来、土地改良区は自分たちの力で職員を募集して育てていく場所であり、役場職員を出向して勤める場所でないと思うが、考えは。

〈村 長〉

土地改良区に出向させている職員は、補助金として人件費を出しているのので、その分を人件費削減している。土地改良区にも出向という形で経費節減に努めている。

〈坂田委員〉

木の香湯温泉プロポーザル公募の今後の対応スケジュールは。

〈産業観光課長〉

条件等を見直し、今後も再度公募を行っていく。

〈後藤委員〉

・消防団の使用する消防車両の件で、中型免許でないと乗れないとは。

〈今村竜喜委員〉

・提案であるが、飼料高騰は今後も予想される。そこで、トウモロコシなどの需給飼料を生産して飼料代を補っては。飼料作物の栽培を追加して、農家飼料支援として販売する事業をしては。

ここが聞きたい ずばり村政を問う!

一般質問は、会議録に基づき、質問者本人が編集し、議会広報特別委員会で構成し、掲載しています。詳細は、会議録の閲覧ができます。



一般質問

ここが聞きたい ずばり村政を問う!

笠野 眞喜議員

※写真撮影の為マスクを外しています。

持続可能な村づくりの重点施策は

笠野議員

持続可能な村づくりで、村長の重点施策は何か。3Kを施策として進めているが、本当に持続可能な村づくりになっているのか。村長になりこの6年間、村民が納得する3Kまた村民が求める環境づくりができたのか。どのような活力が見い出され、暮らしがどのように良くなったのか。30ある施策は本当に村民が必要としているのか。私は何回も座談・懇談会の意味を言ってきた。任期中その施策をやっているのか。これで持続可能な村づくりができるのか。村長出張室で村民の対応をされているが、本当に困っている人には、やはり自ら歩き村民の生の声を聞き、より多くの人と対応し村全体を見ていただきたい。30項目の施策を考えると持続可能なものになっているか疑問である。持続可能な村づくりの考えを問う。

3Kを柱として30の施策に取り組む

村長

第二次総合計画の後期ですが、持続可能な村づくりは、誰もが住みたい住み続けたい村づくりを築くため3K(環境・活力・暮らし)を柱として挙げている。1から6の方策を掲げ、その下30の施策に取り組んでいる。

環境は、水を守るために、地下水の涵養対策として冬季湛水に取り組んでいる。草原維持は今年7月、慶應大学と畜産連合会と連携協定を結んだ。村の宝である水を守ることにも努めている。そのためには財源が必要である。ふるさと寄付金等を地下水保全基金として設け水保全の政策に使っていく。

次に活力は慶應大学と連携して、あか牛でブランド化を図りたいと考えている。移住定住の促進はワーケーション等で関係人口を創出し、定住促進につなげていく。

こうしたことで、元気な村、魅力ある村、選ばれる村を目指していく。

農業後継者・人口増加対策は

笠野議員

高齢化が進み、出生率も低下し村の存続もあやまれる。若者の移住定住の促進対策、基幹産業である農業等の後継者を含めた人口増の対策である。I・U・孫ターンなどの施策の効果が見えない。みらい公社で後継者づくりをしているが条件の悪い圃場での就農は難しいと考える。農家に対する政策施策も重点をおかねば、農地は減少するばかりだ。他県の成功例は積極的に取り入れ若い世代が住みやすい環境づくりも重点をおいてもらいたい。人口増加には、次世代を担う若者が増えることが不可欠である。具体的な成功事例を基に、少子化に対する施策を考えているのかを問う。

若い世代を中心に採用を推進

定住促進課長

ハード面は、空き家を10年間借り上げ、国・県の補助金を活用し、移住定住希望者向けの住宅として整備をしている。熊本地震で整備した木造仮設住宅を利活用事業で解体した材料を村有地に建設し、Uターンした子育て世代に賃貸借している。

ソフト面は、地域おこし協力隊の採用を積極的に取り組んでいる。退任後の定住は11名で、定住率は73%で全国の60%より高い定住率である。今後も若い世代を中心に採用を推進していく。

農政課長

農業後継者対策は、平成23年農業研修生受入協議会を設立。農林水産省新規就農者総合対策、就農準備資金を活用し、主に施設園芸農業研修、最大2ヶ年農業研修生を受け入れている。次年度以降も多くの農業研修生を受け入れ、担い手の確保・育成に取り組む。

河内 克也議員



※写真撮影の為マスクを外しています。

生涯学習（楽集）振興策は

河内議員

情報化等の社会情勢の変化・発展の中で、人々が学校教育だけでなく生涯にわたって自発的な意思に基づき、それぞれの要求と能力に応じて学ぶことが、豊かに生きていくための必須条件となってきた。

村教育行政は、このような村民の要求に応じて、いつでもどこでも誰でも学習できる環境・設備と指導者を配置しなければならない。そして、社会教育・生涯学習を推進、発展させる上で大きな役割を果たすのは人であり、マンパワーだと思う。

- ①社会教育関係各委員に優秀な人材を任命されているのは承知しているが、各委員任命など教育委員会としての基本方針と現在の活動状況は。
- ②社会教育法に規定されている、社会教育主事、公民館主事の育成方針と現在の配置状況は。
- ③村総合計画推進の為に教育委員会として現状をどう認識し、今後どのような視点に立って推進していく考えであるのか。

生涯学習充実の環境づくりに努める

教育長

- ①各委員任命は、多岐にわたって村民に委員をお願いし社会教育を推進しており、それぞれ各分野に造詣の深い方々を人選し任命、社会教育計画及び立案に対し、助言や意見をいただくとともに中心になって活動いただいている。
- ②社会教育主事、公民館主事としての辞令は発令していない。学校教育指導員の一人が社教主事資格を有しており、指導助言をもらっており業務に支障はないと考えている。継続的には、職員に計画的に資格を取得させる体制づくりも必要だと考えており、前向きに対応したい。
- ③現状と課題は、村総合計画に高齢者学級開催、生涯学習講座実施、クラブ南阿蘇との連携、図書室の利活用促進、体育施設の改修の5項目を挙げ課題解決に取り組むと同時に、新たな推進方針も記載している。生涯学習を充実させるためにも、家庭・学校・社会教育が連携し、各団体の育成・協力を図る。村民が、あらゆる機会・場所を利用して自ら文化的な教養を高めながら、生きがいをもって人生を送れるよう環境づくりに努めていく。

災害時要支援者の避難計画は

河内議員

我々は熊本地震で厳しい避難を経験した。要支援者の避難計画策定は重要だ。以前、市原議員が質問、その時、執行部から個別避難計画は現在、作成中であるとの答弁であった。「村要支援者の個別避難計画」作成状況と、計画の実効性を高めるための支援推進について、具体策をどう考えているのか。

作成済みで、支援環境整備を進める

住民福祉課長

自ら避難することが出来ない、避難行動要支援者に対し、移動支援者や留意点、避難場所や緊急連絡先などの情報を一つにまとめた個別避難計画は既に作成している。今後、情報は随時更新しながら、自治会、消防団、自主防災組織、社協、民生委員会等関係機関と連携を図りながら、災害時における避難者対応及び支援環境整備を進める。

アナグマの被害対策を

河内議員

アナグマは数が増加し、村内でもトウモロコシ等、農作物の被害が拡大している。また、建築物の被害もあり、床下などに住み着き、糞尿の臭いや雑菌の繁殖等様々な被害を与えている。猟友会員からアナグマが多い、箱罠にかかる。捕獲手数料対象ではないので、逃がしたり、死んでいれば後始末が大変だという声を聴く。そこで捕獲手数料対象動物に試験的でも追加し、農作物被害軽減、適正な個体数調整ができないか。



ニホンアナグマ

被害状況を確認し、対策を検討する

農政課長

現在、有害鳥獣対策動物は、農作物への被害が著しい鹿、猪、猿、カラスを対象としている。有害鳥獣の捕獲数は年々増加しているものの、農作物の被害は拡大している。今後は猟友会にご協力いただきながら、アナグマの農作物への被害状況を確認した上で、対象動物への追加について検討していく。

沖縄県（石垣市、那覇市等）

先進地実態調査研修（令和4年11月16日から19日）

○議員 14名、事務局 2名

研修目的

激動する世界・経済社会情勢・自治体間生き残り競争の中、議会も的確な対応を求められており、議員は識見と信念、幅広い視野で調査研究を進め、村の発展を目指し努力することが大事。その為の研修であった。

○11月16日（水）午後

石垣市役所、みるくセンター

【目的】 尖閣諸島の歴史、領土問題、環境等の課題と石垣市の取り組みと議会活動、6次産業化研修

【内容】 石垣市は、人口49千人、農畜産業、観光業中心の市。市議会は定数22名で、昨年完成の市庁舎見学後、説明を受けた。終了後、みるくセンターに移動し研修。

【所感】 尖閣の正しい歴史、現状、課題等明確になった。国民の正しい理解が重要。

議会活動は一般質問者、定例会1回平均18.4人、発議数も多く活発であった。



尖閣問題研修



みるくセンター

○11月17日（木）竹富町から豊見城市

【内容】 竹富町は大小16の島からなり、一番大き

い島は西表島で、野生生物の宝庫と呼ばれ、多くの観光客が訪れていた。夕方、旧海軍司令部壕を見学した。

【所感】 竹富町は宿泊所が少なく、南阿蘇村同様、多くは通過型の観光であるが、一人一人の観光消費額は本村と比べ物（金額）にならない。驚いたのは、役場が町内ではなく、石垣市内にあったこと。

海軍司令部壕では、改めて沖縄戦、あらゆる戦争の悲惨さ、理不尽さに心を揺さぶられた。



竹富島憲章



観光レンタサイクル

○11月18日（金）

名護市から那覇市内防衛省施設

【目的】 6次産業支援施設とは？

沖縄周辺の中国をはじめ、他国の活動が活発化している状況下、自衛隊活動を議会人として正しく理解する

【内容】 アグリパークは農産物6次産業化支援拠点施設であるが、加工支援施設をはじめ多くが稼働しておらず、厳しい経営状態であった。

午後、自衛隊沖縄地方協力本部で副本部長から①協力本部の歴史 ②実績と現在の取り組み ③問題認識と施策紹介の説明を受けた。戦後の厳しい募集活動、国民に寄り添う地道な活動、有事に

対応、募集実績、課題、自衛官の処遇等の説明あり。その後、陸上自衛隊那覇駐屯地で研修と見学を行った。

【所感】沖縄戦から77年を経過し現状を整理した。

- ①2度と悲劇は繰り返さないという願いとは裏腹、安全保障環境は厳しさを増している。
- ②台湾有事の際は沖縄は無関係でなく影響がある。
- ③沖縄の負担軽減といいながら進む沖縄の自衛隊配備。県民の思いを察すれば…。
- ④そのような中、熊本地震での自衛隊救助救援活動を経験した。不発弾処理と地域貢献に力を入れる自衛隊。沖縄の方々も以前よりも身近になった自衛隊（統計上）。
- ⑤単純だが最も大切なことは、沖縄を再び戦地にしない。



名護アグリパーク



自衛隊沖縄地方協力本部

〇11月19日（土）

那覇市「首里城」と糸満市の道の駅

【内容】沖縄観光客の8割が訪れていた首里城が、3年前火災で焼失。しかし、完全復元に向け、全国からの支援を力に、現在内閣府が主導し復元作業を進めており、復元の詳細な説明と現場を視察した。復元三本柱、

- ①段階的な公開（見せる復興）
- ②段階的復元
- ③ボランティア活動、イベント開催を通して地域

振興・観光振興への貢献をはたすに取り組んでおられた。

午後、最後の研修地、道の駅「いとまん」は沖縄最大級の施設で、お魚センターもあり、魅力的な施設であった。

【所感】首里城再建には、大量の赤瓦や木材、職人の確保が課題である。しかし、県内外から予想を超える寄付金が寄せられており、首里城が沖縄県民、国民にとってどれだけ大切に貴重な存在であるか感じられた。歴史的景観に配慮した再建整備、破損瓦の再利用等、見せる復興に取り組んでおられ、再建計画が実に的を射ていた。

改選後、初めての全員研修で、視察地のご協力で有意義な研修となりましたが、研修昼食時、こともあろうか議員の飲酒があり、この村民への背信行為、良識・常識に反する行為に、心からお詫びを申し上げます。



首里城正殿復興概要について説明を受ける議員



首里城正殿復興に使用される木材



焼失し解体された首里城正殿再建予定地

議会活動

遠賀郡町議会議長会行政視察

(令和4年10月7日)

○正副議長、今村輝宏議員、河内議員、事務局1名、執行部4名



熊本地震時の説明をする防災係

鹿児島県日置市議会 広報委員会行政視察

(令和4年11月7日)

○議会広報特別委員5名、事務局1名



議会広報特別委員会行政視察受入

第16回熊本県町村議会広報コンクール表彰式・ 令和4年度町村議会広報研修会

(令和4年11月24日)

○議会広報特別委員6名、事務局1名

グランメッセ熊本において、熊本県町村議会広報コンクール表彰式及び広報研修会が開催された。当日は、熊本大学客員教授 越地信一郎氏によるパネルディスカッションが行われた。また、受賞された広報紙に関し、各広報委員からの質疑応答や、町村広報に対する審査コメント頂いた。今後、当広報委員会も指摘内容を踏まえ今後の広報づくりに生かしていきたい。



議会広報研修風景

阿蘇立野ダムみらい活性対策特別委員会

(令和4年11月28日から29日)

○正副議長、委員5名、建設課1名、政策企画課2名、事務局1名

11月28日は、大分県で初となる流水型ダムの玉来ダムを視察、穴あきダムの構造、特徴、概要等を学んだ。その後大分市のななせダムの周辺整備として、道の駅のつはる、のつはる天空広場、のつはる西部の楽校を視察した。整備後の利用状況、課題など大分市の担当者と意見交換を行った。



玉来ダム管理事務所内

11月29日は、佐賀県の佐賀市にある嘉瀬川ダム周辺施設の、ダム駅富士しゃくなげの里、富士しゃくなげ湖水上競技場の視察を行った。

ダムの駅富士しゃくなげの里は一般財団法人が運営、富士しゃくなげ湖水上競技場は、佐賀市が運営を行っており、施設ができるまでの経緯、現状での問題点などの意見交換を行った。



周辺施設道の駅のつはる

議会『村議会に』紀行『聞こう』

村民の皆さまからよく聞かれる疑問に答えてみました。

村議会 & 村会議員のしごと

議会改革① 「議員定数14人から12人に」

傍聴に行ったら、議員が2人減るごつなつたばってん、昔に比べるとえらい減ったな！効果は？

傍聴ありがとうございます。議員定数、3村合併前は38人でしたが、合併後22人、18人、14人となり、今回は2人減らし12人とする条例改正案を可決しました。総務委員会で半年間、慎重に議論・審議し改正案が提出されました。次回選挙（令和7年）から適用されます。

削減効果は1期4年間で約2800万円（報酬等を試算）は、村民の福祉向上のための貴重な財源となります。議員数を絞る場合、村民意思が十分反映されず村議会が「遠く」なる懸念があります。削減は、議員にとっても厳しい選択、判断ですが、厳しい財政状況下、議会が自ら身を切り、改革をしていく姿勢を示すこと、各自レベルアップを図ること、それこそが村民の皆様からの信頼に応えるものであるとの考えです。

議会改革② 「常任委員会再編」影響は？

3つの常任委員会が2つになったが影響はないとな？

常任委員会は行政が多様・専門化し、本会議のみでは多数の議案を能率的に処理することが出来ないために設置されています。現在各委員会は5人（合併後は7～8人）の委員で組織されていましたが、定数が減っていくことへの対応と、行政がさらに複雑多岐となり、高度専門知識が必要になっていくことに対応できるように再編しました。

あなたのSDGsは？

vol.6

第8 駐在区 小山 左文

南阿蘇村に生きて 私の暮らしとSDGs



SDGs 未来都市
南阿蘇村



南阿蘇村に移住して10数年、主婦をしております。
阿蘇山の美味しい水を活かし、家庭菜園を楽しんでおります。種や小さな苗を購入し、じっくり育てるのが野菜作りの魅力です。肥料は、牛糞や、有機肥料のほか、微生物の働きを活用して有機物を分解するコンポストを使い、食事作りで出た野菜のくずなどを堆肥にして使用します。農薬は使わず、雑草や害虫は手で取り除きます。それでも新芽を食べられてしまいます。秋ジャガ芋は動物被害に全部遭いましたが、そんな時には「負けないぞ」という気持ちで、再び土を耕し、種をまきます。



一所懸命お世話をして、立派に成長した野菜を収穫するのは、本当にうれしいことです。成長が間に合わず、小さいままの野菜もまた愛おしく、大切に食べています。

私にとっては普通の日常でしたが、これもSDGsにつながると最近になって気が付きました。持続可能な社会を実現するために出来るヒントを模索しながら日々過ごしていきたいと思えます。



編集後記

新年あけましておめでとうございます。

『癸卯』の年「これまでの努力が花開き実り始める」といった縁起のよさを表します。コロナ禍以降停滞し続けた世の中に希望の芽吹く春がやってきそうです。

私は、年末の高校駅伝から元旦の実業団駅伝、箱根駅伝と時間が取れる限り見ております。私も若い頃地域の駅伝大会に参加したこともあり親しみがあります。選手の一生懸命に走る姿はもちろんのこと、仲間の思いを込めて走る襷リレーは人と人、人とチームの絆をつなぐ魅力ある競技ではないかと思えます。

「みんながつくる、未来につなぐ」議会活動を目指し走っている所です。

市原 恵一

議会広報特別委員会

委員長 今村 輝宏
副委員長 市原 恵一
委員 河内 克也
〃 坂田 正也
〃 岡 智則
〃 辰巳 和美

発行責任者

議長 桐原 純男

表紙の写真について 令和5年1月8日に行われた消防団出初式です。
今年一年が平和な年であることを願います。(場所：白水運動公園)



ウクライナ国旗